



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	5,113	16.5	1,167	4.4	1,171	4.3	726	5.2
2023年3月期第2四半期	4,389	2.4	1,117	17.2	1,122	17.2	690	16.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	74.95	
2023年3月期第2四半期	71.24	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	13,054		11,011		84.4	
2023年3月期	12,436		10,285		82.7	

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 11,011百万円 2023年3月期 10,285百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	7.7	2,300	4.9	2,300	5.2	1,426	5.3	147.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	9,687,400 株	2023年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	270 株	2023年3月期	270 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	9,687,130 株	2023年3月期2Q	9,687,130 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)におけるわが国経済は、各種政策の効果もあって緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、世界的な金融引き締め等による海外景気の下振れによるリスクや物価上昇等による影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、2023年上半年(1月から6月まで)の紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年同期比でマイナスとなりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2023年上半年の紙と電子を合算した推定販売金額は前年同期比3.7%減の8,024億円となり、その内訳は、紙の出版物については同8.0%減の5,482億円、電子出版については同7.1%増の2,542億円と、紙の市場が前年同期を下回った一方で、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る163点(前年同期比40点増)となりました。2023年10月からTVアニメ放送を開始する『とあるおっさんのVRMMO活動記』の最新巻28巻を刊行し、さらにアニメ放送前後における書店の需要に応じた既刊各巻の増刷及び出荷を行ったことで、同シリーズの売上が伸びました。また、女性向けファンタジーレーベル「レジーナブックス」から刊行した『継母の心得』の第2巻が、前巻に続いて好評を博し、女性向け小説と親和性の高い電子書籍販売においても販売数を伸ばして好調な売れ行きを示しました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る着地となりました。

② 漫画

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る82点(前年同期比11点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、シリーズ累計350万部を突破し2024年1月からTVアニメ第2期の放送を予定している『月が導く異世界道中』やTVアニメ化が決定した『Re:Monster』等の大型人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、電子書籍販売につきましては、新刊配信数が増加したことに加え、各電子ストアにて実施した作品露出の強化や1話単位での販売強化等の施策が奏功したことから、売上高は大幅に増加いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大幅に上回る着地となりました。

③ 文庫

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る86点(前年同期比8点増)となりました。当社が開催するWebコンテンツ大賞の受賞作を中心に「キャラ文芸」「ライト文芸」ジャンルから複数作品を刊行する等、取り扱いジャンルの拡大及び強化に引き続き注力いたしました。また、堅調な成長を続ける児童書市場への本格参入を目的に前年同期に創刊した児童文庫レーベル「アルファポリスきずな文庫」からも複数作品を刊行し、新たな市場の開拓に取り組んでまいりました。

しかし、開拓中のジャンルにおける刊行を強化した反面、刊行書籍1点あたりの発行部数は前年同期より減少したことから、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る金額で着地いたしました。

④ その他

当第2四半期累計期間の刊行点数は1点(前年同期比2点減)となりました。当ジャンルにおいては、更なる業績拡大及びポートフォリオ最適化の観点から幅広いジャンルにおける書籍の刊行に取り組んでまいりました。

しかしながら、刊行計画の都合上、刊行点数が前年同期から減少したことにより、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は5,113,875千円(前年同期比16.5%増)、営業利益は1,167,501千円(同4.4%増)、経常利益は1,171,012千円(同4.3%増)、四半期純利益は726,027千円(同5.2%増)となりました。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ564,786千円増加し、12,662,887千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比415,450千円増）したこと並びに売掛金が増加（同109,123千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ53,768千円増加し、391,668千円となりました。これは主に、無形固定資産が減少（同5,836千円減）した一方で、投資その他の資産が増加（同61,205千円増）したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ99,684千円減少し、2,010,265千円となりました。これは主に、未払金が増加（前事業年度末比57,271千円増）した一方で、未払法人税等が減少（同116,748千円減）したこと及び返金負債が減少（同37,094千円減）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ7,788千円減少し、32,540千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同7,118千円減）によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ726,027千円増加し、11,011,750千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ415,450千円増加し、9,187,190千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは487,803千円の収入（前年同期は713,104千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、売上債権の増加及び法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは57,531千円の支出（前年同期は5,190千円の支出）となりました。減少要因は、出資金の払込並びに敷金及び保証金の差入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは14,821千円の支出（前年同期は10,693千円の支出）となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,771,740	9,187,190
売掛金	2,800,422	2,909,546
製品	251,162	287,775
仕掛品	206,227	232,781
その他	68,548	45,593
流動資産合計	12,098,101	12,662,887
固定資産		
有形固定資産	30,053	28,453
無形固定資産	33,842	28,006
投資その他の資産	274,004	335,209
固定資産合計	337,900	391,668
資産合計	12,436,001	13,054,556
負債の部		
流動負債		
買掛金	74,044	72,128
1年内返済予定の長期借入金	25,040	17,996
未払金	689,011	746,283
未払法人税等	586,712	469,963
賞与引当金	49,450	62,596
投稿インセンティブ引当金	28,898	34,479
返金負債	457,442	420,348
その他	199,349	186,469
流動負債合計	2,109,950	2,010,265
固定負債		
長期借入金	37,959	30,841
その他	2,369	1,699
固定負債合計	40,328	32,540
負債合計	2,150,279	2,042,805
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	8,568,710	9,294,738
自己株式	△637	△637
株主資本合計	10,285,722	11,011,750
純資産合計	10,285,722	11,011,750
負債純資産合計	12,436,001	13,054,556

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,389,243	5,113,875
売上原価	1,055,573	1,295,259
売上総利益	3,333,669	3,818,616
販売費及び一般管理費	2,215,700	2,651,114
営業利益	1,117,969	1,167,501
営業外収益		
受取利息	30	37
前払式支払手段失効益	3,733	3,074
その他	895	488
営業外収益合計	4,660	3,600
営業外費用		
支払利息	83	88
営業外費用合計	83	88
経常利益	1,122,546	1,171,012
特別損失		
関係会社株式評価損	9,419	—
特別損失合計	9,419	—
税引前四半期純利益	1,113,126	1,171,012
法人税等	422,988	444,984
四半期純利益	690,138	726,027

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,113,126	1,171,012
減価償却費	13,558	12,666
関係会社株式評価損	9,419	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,535	13,145
返金負債の増減額(△は減少)	△4,370	△37,094
投稿インセンティブ引当金の増減額(△は減少)	5,353	5,581
受取利息及び受取配当金	△30	△37
支払利息	83	88
売上債権の増減額(△は増加)	△15,027	△109,123
棚卸資産の増減額(△は増加)	△82,009	△63,167
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,634	△1,916
未払金の増減額(△は減少)	22,106	56,945
その他	△171	△2,299
小計	1,053,869	1,045,802
利息及び配当金の受取額	30	37
利息の支払額	△83	△88
法人税等の支払額	△340,712	△557,948
営業活動によるキャッシュ・フロー	713,104	487,803
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,440	△1,672
出資金の払込による支出	△3,750	△19,190
敷金及び保証金の差入による支出	—	△36,668
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,190	△57,531
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△10,044	△14,162
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△649	△659
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,693	△14,821
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	697,221	415,450
現金及び現金同等物の期首残高	7,102,594	8,771,740
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,799,816	9,187,190

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。